



万物よ、目を覚ましなさい

伝来の」という意味です。

— そうでしたか。度々お話に出てくる僧舞も、僧侶の踊りなのですか？

— こんにちは。すっかり春になりましたね。すっかり寿玉 気持ちの良い季節になりました。

— どこか行楽にでも出かけた季節ですが、そうですね、寿玉さんのご予定にも、どこかのお寺にお出かけになるとか？

寿玉 別に観光旅行というわけではありませんよ。

(笑)

— お寺と踊りというのは、イメージとしてすぐには結びつかないのですが。

寿玉 そうですか？ 韓国では梵舞(범무)といって、仏教儀式の際に踊られるナビチュム(나비춤)やパラチュム(바라춤)があります。梵舞の梵とは「インド

— 確かに寿玉さんはお坊さんではありませんね。

(笑)

寿玉 ですが、舞いながら私の心の中の祈りや欲望や葛藤に一番気付かされるのがこの僧舞なのです。舞を通して自分の魂の声と向き合いながら解き放たれていく気持ちは僧舞の醍醐味です。そういう意味では、劇場の舞台ではな

く、長い時の流れと、多くの人々の祈りが澱のように蓄積された寺院のような場所です。舞わせていただくことには特別な気持ちがあります。そのようなところに足を踏み入れると、それだけで心の驕りが取れて思わず素直になっていく自分を感じます。

— 表面ではなくて心の置き方と言う所では、つながる所があつたのですね。

寿玉 お寺の太鼓を使わせて頂いて僧舞の太鼓を叩くとき、韓国の僧侶たちの法鼓(법고)を思い出します。時を告げるとともに、人々を悩ませる煩惱を払いのけて「万物よ。目覚めなさい」

「万物よ。安らかにおやすみなさい」と知らせているのだと、最近ある先生から伺いました。私は踊りの後半で太鼓を叩くときに、疲れた魂が洗われて段々と昇華されていくのを感じます。

— いつでしたか寿玉さんが雑誌で「私にとって僧舞は夜明けのイメージなんです。あの太鼓の音色は煩惱や恨(ハン)の暗闇から魂を呼び覚ます暁の声なんです」とおっしゃっていたのを思い出しました。

寿玉 えっ、私がそんなことを言ったのですか！ これからも僧舞はライフワークにしていきたいと思っています。

今回のインタビューを通して、「お寺にも鐘ではなくて太鼓があつたのですか」とか「僧侶が舞うのですか」という感想が漏れるほど、不勉強な私には驚くようなお話を伺うことが出来ました。透明な光が弾ける初夏の風の中に、長いチャンサムが舞い、コッカル(哭聲)の覆いの下で静かな微笑を浮かべている天真爛漫な小鳥を見たように思いました。

西方 恭子





北坂 伸子

「アニヨハセヨー!」と、瞳をキラキラ輝かせて声をかけて来たのは、韓国の友人を鎌倉へと案内した時の事でした。

昼食をとりに入ったお店で待ってましたとばかりに付きつきり状態で最高? のもてなしをしてくれた女主人がいました。聞くと韓国の某歌手の大ファンでハングルを目下独学で猛勉強中とか。来月にはソウルへの初旅行をひかえて大張り切りだったのです。この張り切り様だと私のハングル力なんてすぐに抜かれてしまう。いやもうすでに...と溜め息をつきながら、韓国に十年近く住んだ自分に「何でやねん!!」と突っ込み

を入れたのでした。

好きこそ...とは良く言ったものです。好き、とは底知れぬ力を引き出すものですね。今だけだけの方たちが、女主人と同様のことをされているのやら。韓流ブームに終わりは無いように思った一日でした。

高校の時から始めた「書」は、この好きと言う意識はあまり無く、まるで何かに取り憑かれたかのように、好きな筆を買えた晩にはそれを抱いて寝ました。十代の娘が抱くものとして違っていたかどうかはさておき、変!? でした。書けば書くほど上手くなり、観れば観るほど観たものを吸い込んで行くことができる、

本当に良い時期だったのでしよう。この時期があったからこそ今の好き! があるのかもしれません。

何年か前から縁あって寿玉さんの舞台に書を参加させて頂き、今までの「我」を出す書から、寿玉さんを思いながら「我」をそっとおく作業をすることで、心地良い発見をすることができました。大地からほとぼしる舞のエネルギから力をもらい、墨の中に再び何が宿るような気がします。舞台が始まる時のスーッと出る足先、見えないけれども手の先からこぼれ落ちるような何か。寿玉さんの凛とした表情を思い浮かべながら、真っ白な紙に息をつまらせて筆を入れる瞬間は私だけの快感です!

韓国舞踊を観る度にとっても懐かしい思いがします。もしかして前世は両班(ヤンバン)!? いえいえ間違いない浪速のオパンですが、こんなに縁のある韓国や、寿玉さん、そしてそれにつながる人々との出会いに心から感謝しつつ、キラリと輝いた瞳に向かってとりあえず目薬を指す毎日です。

◇ 趙寿玉写真集と北坂伸子さんの「美しい韓国の家庭料理」の出版記念会 ◇

舞踊：趙寿玉 演奏：李明姫 李東信 朴根鐘 他

2006年4月25日(火) 三軒茶屋・三茶しゃれなあどにて18時受付・18時半開始

会費：5,000円(写真集代含+軽い食事が出ます)

問い合わせ先：川勝敬子(コリアンキャッツ) 050-3403-5891



宋 和映先生のワークショップに参加して

趙 昌代

お正月気分というものが、年々薄れていきますが、今年も例外ではなく、1月14日から始まる、宋和映先生のワークショップに、あつという間に突入してしまいました。

昨年は私自身には、実にいろんな事がありすぎた一年でした。苦しい状況の中で、細々とでも踊りを続けられた事は幸せでもありますし、また、宋先生から習えた事は、私の踊りの発展にも大きく繋がりが、とても感謝しています。先生の踊りを確か4年くらい前に、中野で見ました。とても素晴らしく、是非一度機会があれば習ってみたいと思っていました。ご縁あって、一昨年からは、作品をいくつか教えていただくようになりました。いつも、新しいものを習うときは、期待に緊張感が入り混じり、何とも言えない幸せな時間になります。ですから、夢中で練習場に駆けつけ、いやな事、面倒な事をす

べて忘れ、ひたすら、踊りま

す。今までは、割と少人数、もしくはは、ありがたい(?)と思わなきゃいけない(?)事に、マンツーマンなんて事もありませんでしたが、今回のワークショップは、20人以上の参加者でコムンゴの音楽で立舞(イプチュム)を習いました。

コムンゴの音楽は荘厳で素晴らしいものでした。しかし、私のような未熟者にはチャングンが難解すぎて、実に踊るのに苦労しました。舞踊を踊る時の音楽は、チャングンを取りやすいものが多いのですが、今回の立舞に使う玄琴(コムンゴ)の散調は、非常に技巧的で、際立った遊びの入っている部分を使っており、理解するのにひどく時間がかかりそうです。おそらく、私などは、何百回か聞かなくては無理でしょう。ところが、宋先生はやはりさすがで、いかなるチャングンでも自由

在に踊られます。

私はチャングンが取れず大混乱した頭で、年輪の差というものを痛切に感じました。日本に住み、韓国の古典音楽に触れた年数の少ない私には、なかなか超えられない壁を見ました。コムンゴの

力強さと宋先生の踊りは一見ミスマツチのようですが、ところが、それが微妙に絡み合って、チュンパンの会好みの、とても大人っぽい作品となっているのです。後は、踊り子達が血の滲む(;)様な努力を積むだけという事です。

宋先生の踊

りは一見すると、力が抜け、軽々とした感じに見受けられます。しかし実は、丹田やお尻に物凄く負荷がかかっています。ところが先生はそれを微塵も感じさせません。筋力の鍛錬がされていないと、決して踊れないのが、宋和映流の踊りです。それをキチンと認識して踊っていかないと、何処まで行っても、似て非なるものとなってしまいます。いくら同じように踊ろうと努力しても、なかなか掴みにく

いのは、そういうところに原因があるのではないかと思います。私の中で踊るといふ事は「ほどいていく」と言う感覚に近い気がします。絡まった感情をほどいていく。積もった感情をほどいていく。日常をほどいていく。そして、軽くなる。韓国では、「ハン」とか「プリ」という言葉を良く使いますが、ほんの少し、踊りを通じて、そのような感じが分かってきたように思います。



舞踊とわたし

小菅 優子

週に一度だけ、さっさと仕事を切り上げて舞踊のレッスンに通うようになってから4年が過ぎた。本当に些細なきっかけで始めた韓国舞踊が、今ではすっかり生活の一部になっている。

最初のレッスンの日のことは、今でもよく覚えている。不安と期待でどきどきしながら、新宿の朝日カルチャーセンターの重い扉を開けると、鏡を背に生徒を前にした先生が「いらっしやい〜!」と、明るい笑顔で迎えてくれた。

舞踊を習う直前に、横浜の能楽堂で初めて見た韓国舞踊はつかみどころのないものだったし、その日に習ったステップも、理解する前にレッスンを表現するボキャブラリーがとつても豊かな先生(初日の印象です!)や、優しく楽しいオンニ達の魅力と、韓国舞踊の奥深さにとりつかれ、週に一度無心に身体を動かす続け、本当にいつの間にと



感じるほどで今日に至っている。

今では、自分が自信を持つ「好き」と言えるものがあることがとても嬉しく、私みたいな無器用な者でも、続けていけば何らかの形になることが分かったのも大きな収穫だ。昨年の初めに、自分のこの先の目標を考えたことがある。そのとき最初に思い浮かんだのが、仕事のことでも、生活のことでもなく「10年後くらいには、舞台上に立てたらいいな」ということだった。すると数ヶ月後に、その願いが思いがけずも叶ってしまった。それで「いつか、大好きな趙

富子オンニと一緒に舞台上に立てたらいいな」と考えた。そうしたら、嬉しいことに昨年中にそれも実現してしまった。おかげで、とても充実した一年だった。

とはいえ、私の踊りは素人どころか「ひよこ」の域を脱していない。そこで今年、あまり欲張らず、今持っているものを少しずつ鍛え、整えていけたらと思っている。

辛抱強く教えてくれる趙寿玉先生、オンニ達、そして諦めているのかレッスンに快く送り出してくれる夫にも感謝しつつ、これからも楽しく踊り続けていけたら幸せだ。



活動記録 & 予定

- ◎ 1月14、15、21、25、29日及び2月4日
新宿区地域センター等に於いて宋和映先生の「玄琴立舞ワークショップ」を行った。
- ◎ 4月2日
ワンコリア、フェスティバルのフリーマーケットに出店
- ◎ 25日
趙寿玉写真集出版記念パーティー
- ◎ 6月3日
渡来人音楽祭に出演。長野県の神宮寺アパロホールにて。PM.1:30〜6:30
- ◎ 13日
宋和映先生の公演に出演。ソウル国立劇場の大劇場にて。
- ◎ 14、15日
宋和映先生の公演に出演。ソウル国立国楽院にて。
- ◎ 8月6、7、8日
「命の伝承」公演。長野県の神宮寺アパロホールにて。
- ◎ 9月15日
「日韓の和II」主催吉岡邦楽社に出演。杉並セシオンにて。

報告・橋本 幸子